

盛京病院第1楼 A座 2F 小児科外来の輸液区. この区画では外来の患児が点滴を受けているのですが, 点滴台の代わりに付添人が手持ちのプラスチック製の棒の先に点滴瓶をぶら下げて保持しているのが珍しくて, 私の写真撮影にかこつけて手持ち点滴棒を撮影しました. 中国でも「断りなく写真を撮るのはご遠慮下さい」という雰囲気です.



盛京病院第1楼の職員食堂



同じく教授用食堂。「助教授も入っていいんじゃないかな？」と利用資格はかなりフアジ
ーらしい。週5日、営業時間は11-12:40と割に短いんですね。



盛京病院の建物外に設けられ
ている喫煙所。



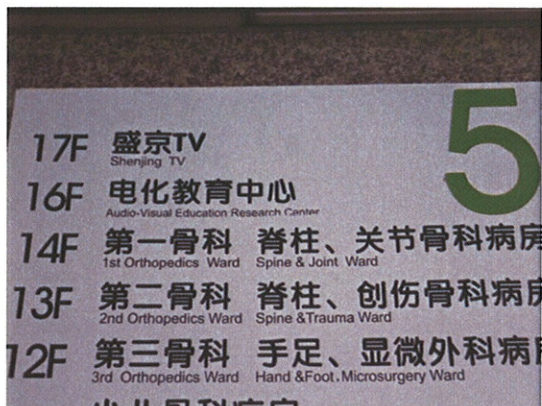
盛京病院地下駐車場への通路に野菜のようなものが山積み. 食堂の料理に使う葱でしたが, 食品の取り扱いはおおらかなあと云う感じ.



特別診察部門. 外人や政府・軍の高官, 富裕層などが受診します



盛京病院第1楼の 17F にはテレビ局があり, 病院内の情報を院内に放映している. 右の写真はエレベーターホールに設置されている院内放送用テレビ.



エレベーターは 10 基ほどあるが満員でなかなかやって来ない. 奇数階(单屋)行きと偶数階(双屋)行きに分けられており, さらに急患用に「急診, 手術」用に1基が充てられている. 「急診, 手術」用エレベーターには操作員(女性)が乗っており, 一般患者は乗せない.





お昼は日本領事館近くの「東京」という日本食堂で鉄火巻きとサーモン巻きをごちそうになる。

女将はTシャツの上に浴衣のようなものを羽織るといふ、(日本人から見ると) 珍妙なスタイル。

わさびはチューブ入りのS&B製だったが、めちゃ辛い。

日本人客が多いだろうに、トイレの便器がシンガポール・スタイル(前後の区別が判らない)でびっくり。



午後は「瀋陽故宮」に連れて行って貰う。まず陳衛民教授のご自宅まで(陳教授の三菱製の車で)移動し(ご自宅はアパート、窓外には葱)、そこで別の車に乗り換える。瀋陽故宮まで所要時間約40分。



清王朝の2代皇帝までが住んでいた故宮の建物はこじんまりとした造りで好感が持てる。後ろは皇帝が式典を行った大政殿。

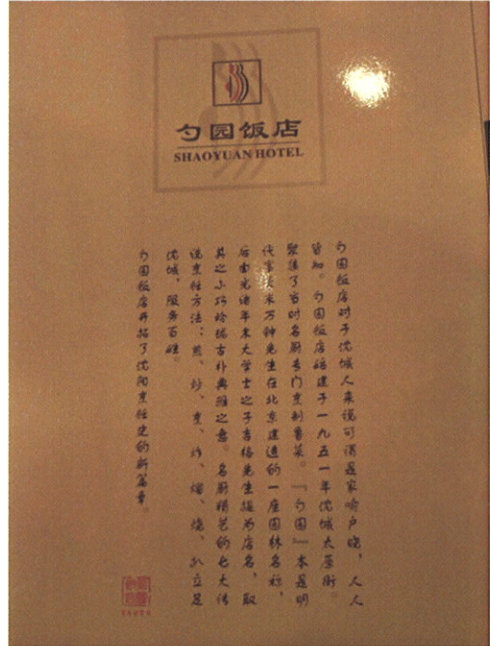


故宮の門前市で印材を探すのに一苦労。石材店で妥当な値段の印材(装飾機械彫り, 260元)を買い, 近所のハンコ屋(芸豊齋)に刻印を頼む。1文字 50元 x 四文字。まあ3歳の孫へのみやげはこんなものでよいでしょう。

夕方瀋陽故宮から第三病院へ見学に行く予定が春節のラッシュで, 外環自動車道を大回りする。第三病院は滑翔院区にあり, 旧日中友好病院。春節が近づいて手術件数は減っており, この日も夕方にはほとんどの手術は終了していた。写真は盛京病院附属第3病院。



夕食は勺円飯店(山東省料理)で教室員の皆さんと会食。中国では料理が残らないと主催者の恥になるとは聞いてましたが, 半端じゃない量の料理が残ります。"もったいない"世代から見ると, ちょっと複雑。(ドギー・バッグを使ったのは陳教授夫人だけだったような...)。出席者の男女比は女性9:男性3。女性が75%!



瀋陽 3 日目の朝，ホテルのドアボーイさん。



クラウンプラザホテル瀋陽 9F の客室階廊下とエレベーターホール。



夜は水上海港(回族料理:豚肉ダメ, 鱗のない魚ダメ)で会食. 第3病院副部長 龍先生(女性), 陳先生(同 助教授)が同席.



水上海港からの帰路, 氷の彫刻を見る. ハルビンの氷祭りに比べれば規模は小さいが, 照明されてなかなかきれい. 係のおじさんは完全耐寒装備.

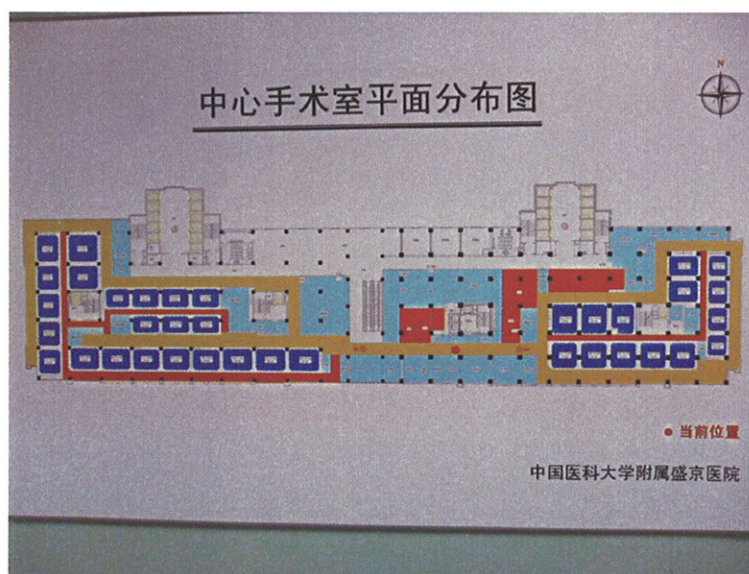


市中の動物病院. 夜も営業しているんですね. そういえば瀋陽滞在中市中でイヌネコを見なかった. 陳教授の説明ではペットの散歩時間に制限があつて, 日中は市中の散歩が禁じられているとか.



2日目になると院内の様子も多少分かるようになる。盛京病院第1楼4階の第1手術室は、A座の部分(2007年竣工)とB座の部分(2010年竣工)が中央で合体している。A座の手術室(平面図向かって右側)は14室、新しいB座の手術室は22室(平面図向かって左側)である。麻酔科の当直医は3名、宅直2名。

中央手術部入り口からA座側を見ると、患者家族が手術部入り口に沢山たむろして手術の終了を待っている。これに対してB座側は広い患者家族待合スペースが設けられている。まるで空港の待合室のように見えるが、長時間待つ家族には快適な待合室とは言えないだろう。



建物内の暖気を保つため、外部との通用口には ごつい「綿入れ」カーテンが掛かっています。左の写真は地下駐車場への通用口、右側は院内の他の場所。スーパーなども同じように綿入れカーテンを設置しています。



春節用の花火・爆竹販売店。爆竹は春節の期間にだけ使用が許可されており、売り場は(危険なので)戸外のみ。あちこちの街角に同じようなテント張りの出店が眼に付きました。



2012/1/18(水)

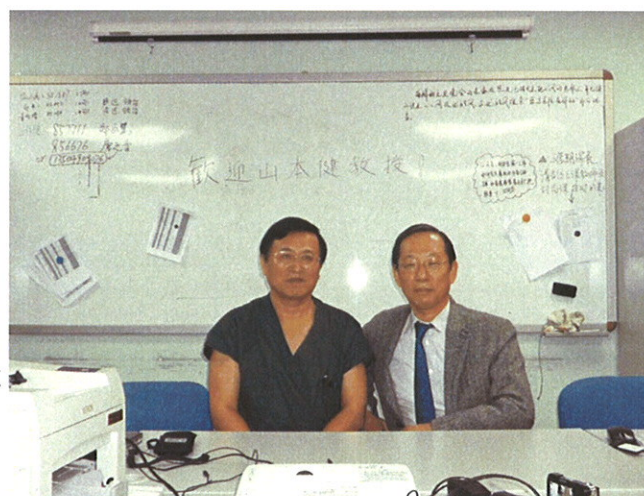
無事3回の講義を終えて、聴講してくれた麻酔科医達との集合写真。



スタッフが日常業務に散った後、陳衛民教授と。

そうそう、日本の教授が聞いたら眼を回すかも知れませんが、中国では主任教授には人事権がありません。病院の人事課と大学の人事処が人事を決定すると云うことらしいです。

大学の意志決定機関としての「教授会」は中国には存在しない、ということです。



医学部の卒業生が専門とする診療科を決める際にも、成績順に定員を埋めて行き、定員がいっぱいになった後は国や省の方針に従って（本人の希望とは異なった）診療科へ配属されるシステムです。

市中の交通警察.

アボットの Mr 李さんの車で一旦ホテルへ. ダッシュボードに乗っているのは(写真で初めて気がつきましたが)「クレヨンしんちゃん」のコピーかな?



宿舎から程近い、「旧大和ホテル」. 大和ホテルの前の周回道路中央には, 巨大な毛沢東の像が立っています.



旧満州医科大学の建物, 後ろの高層ビルは中国医科大附属第一病院.



最終講義の午後は徐先生の案内で, 清朝第2代皇帝のホンタイジ墓陵「昭陵 (北陵)」へ.
本日は日中零下 14 度.

盛京病院から一旦ホテルに戻り, (貼り付け使い捨てカイロ) オンパックスで耐寒装備を補強し,
再び李さんの車で昭陵へ向かうが, 交通が混んでいるので予定を変更.

まず何度か訪れたスーパーマーケット “家東福” (Carrefour, フランス資本) のファーストフード・レストランで浸け麺の昼食. 細いポテト料理が美味. この地下駐車場に車を止めて真新しい地下鉄に乗り換え. 地下鉄は片道2元(何と安い!).

昭陵は観光客もおらず静か. 相当に寒い, コート下のカーディガンは脱いでも大丈夫. 耳まで覆う帽子と厚手の手袋は必需品.

Dr 徐と昭陵巡り. ホンタイジ夫妻は昭陵の地下宮殿に埋葬されているらしいが, 地下宮殿の存在は確認できていない.



“家東福” 前の交差点で交通整理を行う交通警官(女性).

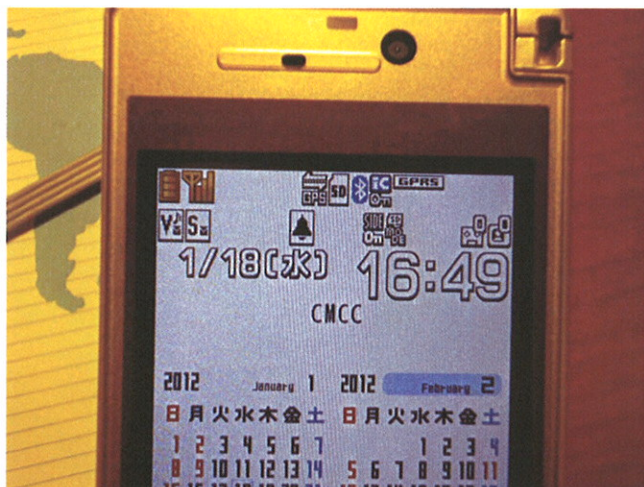


“家東福” でみやげの乾燥棗を買い足す. 現金で支払うと, レジ係が 100 元札を矯めつ眇めつ確かめる. 偽札が多いのかな?

ホテルに戻る途中で, 李さんに頼んで瀋陽南駅前を走って貰う. 大きな立派な煉瓦作りの駅で, 昔の東京駅と雰囲気似ています.

ホテルへ戻って一休みしていたら、自分の NTT DoCoMo 携帯電話に金沢大学から相次いで 2 本電話が入る。今回海外旅行用の手続きはしていないのに、電話の内容から、どうも瀋陽から大学アドレス(@med.kanazawa-u.ac.jp)宛に送ったメールが着いていないらしいことも判った。

携帯画面の CMCC は(China Mobile Communication Company), 中国の携帯電話プロバイダ。昔々の国際ローミング契約がまだ生きているらしい。



外事処長潘伯臣 Pan Bochen 教授のご招待で、「柏晶酒店」にて夕食をごちそうになる。
左から陳衛民教授, 山本健, 潘教授, 毛先生, 王さん。高級店で、小部屋に専用のトイレ付き。
潘先生は旭川医大に5年間留学されて日本語はとてもお上手なのだが...



会話の中で“とうもろこし”を”トウモコロシ”と発音されたのを聞き咎めて陳教授に確認した所、彼も”トウモコロシ”と発音する。教授2人が同じ言い間違いをするのには驚いた。
「とうもろこし」は日本の3～4歳くらいの子供の言い間違いの定番らしい。ほかに「めだやまき（目玉焼き）」「てべり（テレビ）」なども定番..

「柏晶酒店」では料理を運んでくれるスタッフがえらく高年齢。事情を聞くと春節で若い従業員は休みを取って帰省してしまい、管理職クラスが現場に出なくてはならないのだと。

ホテルに戻り 荷造り。陳夫妻から頂戴した(大量の)乾燥棗と中国茶で大きなスーツケースは満杯。瀋陽では雨は一度も降らず、地面も乾いていて、持参した折りたたみ傘と雨靴は出番がなかった。

2012/1/19 (木)

朝、4日間お世話になった運転手さんと王さん、陳教授に霧深い自動車道路を瀋陽空港まで送って貰い、またしても乗務員の態度の悪～い中国南方航空で帰国の途についた。

帰国後、笹川記念保健協力財団から伺ったところでは、このような形式の専門家派遣は今回が最後になるとのこと。最後におもしろい体験をさせていただき、また瀋陽の麻酔科医達と交流ができたことを、同財団に深謝します。

以上